

農学部再編闘争とは何か

農字の問題には、原因を「や」とそれを根絶して新たなものに創造してやく圖り、すなむち農業民主化闘争へと發展していく。そしてその具体的問題として農業部における農字の体系を確立する必要性が学部再編のやく題である。から学生と学部長以下の役職者とで構成された準備委員会が結成され、この準備会に於ても全ての問題が討議された結果、進めてゆき採決は行なわず全会一致をもって解決する事が認められていた。しかし再編準備会での確認書の件は、教授会は理由を明らかにせず追認を拒否した事實そのものは再編の限界を明確に示すものであった。

再編とは、限界を含みつつもその意義として、政治的立場に於ける大學の帝国主義的再編に対する、不斷に學生の「科學」する姿勢と認識を通じてそれが完極的に自己せらる學生の実践論理を培うものとなる。であろうとこうことであつた。しかしながら現実の運動が教授一人一人を問へ詰める段階になると、ある時は理事会の手先となり、ある時は國家権力の尖兵ともな川得ることとは明らかとなつてきて、いふし、それ故に再編の制度上の改編を文部省支配権力の意向にそつてねじ上げようとする教授会、教授に対する斗争を志してはならぬのである。

また現在、再編闘争は校舎獲得闘争そのものであるかの如き情勢になつて、再編闘争を勝利すべく新たに闘争を展開してやかねばならぬのである。

こうした現状を見つ「農再編」を今一度自らの問題として思考しなければならぬだろ。

時。日午後3時半
場所。農業用具5号
138番教室

基調報告

前學生會委員長妹尾直言